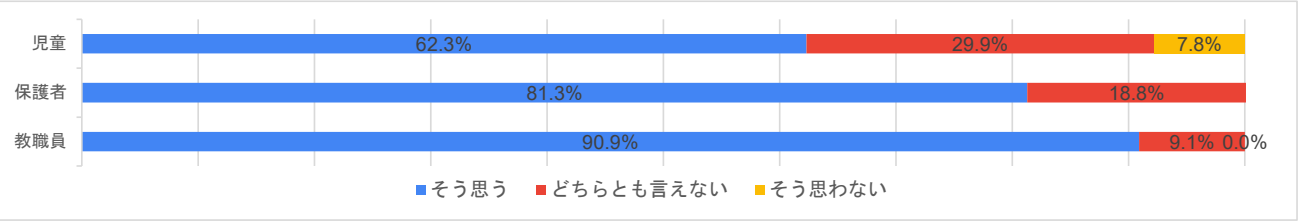
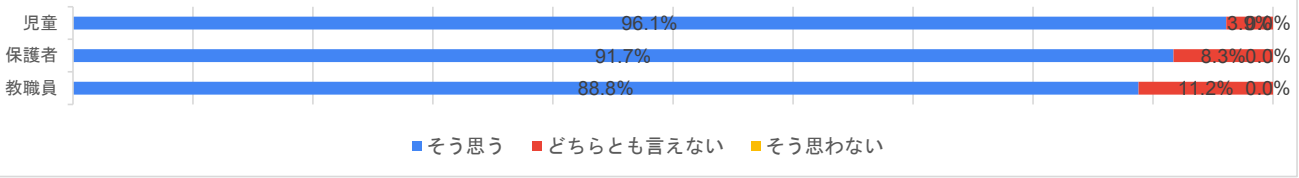
令和８年度前期学校評価　教職員・児童・保護者アンケート結果

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
1	児童の登校意欲	児童	62.3%	29.9%	7.8%
		保護者	81.3%	18.8%	0.0%
		教職員	90.9%	9.1%	0.0%



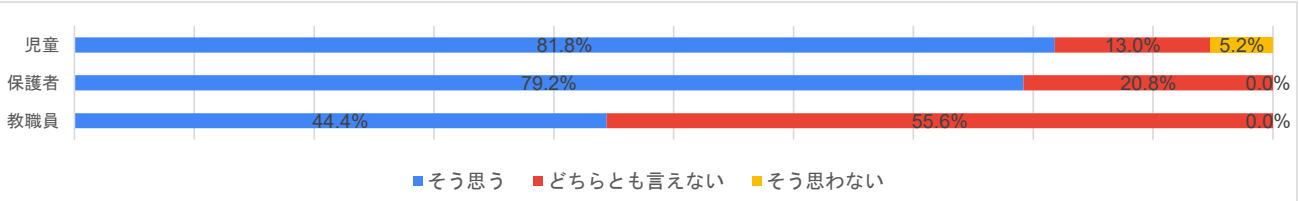
○ 教職員・保護者が捉えている児童の学校生活への意欲と、児童自身の実感との間に一定の差があることが明らかになった。
○ 児童一人ひとりが安心・安全に学校生活を送れるよう、日々の悩みや困り感に教職員がより丁寧に向き合う姿勢を大切にするとともに、今後も「楽しい」と感じる授業づくりを進める。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
2	地域連携・協働した特色ある教育活動	児童	96.1%	3.9%	0.0%
		保護者	91.7%	8.3%	0.0%
		教職員	88.8%	11.2%	0.0%



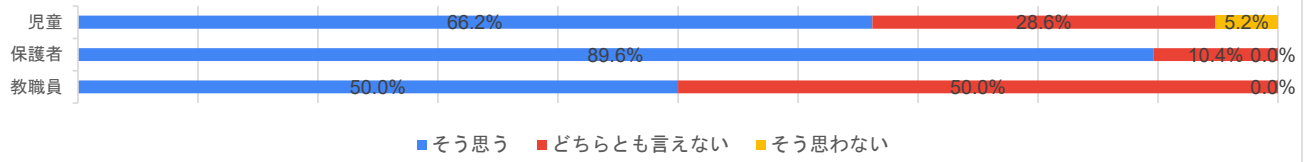
○ 今年度、地域と連携した特色ある教育活動の充実を重点としており、例えば、全児童対象の相撲に親しむ教室や５年生での黒米の田植えや稲刈りなど教育活動の充実を図っている。
○ ふるさと福島町にある教育資源を有効活用しようと、カリキュラムの見直しを図っており、今後も特色ある教育活動を推進していく。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
3	学習内容の理解度に応じた授業改善	児童	81.8%	13.0%	5.2%
		保護者	79.2%	20.8%	0.0%
		教職員	44.4%	55.6%	0.0%



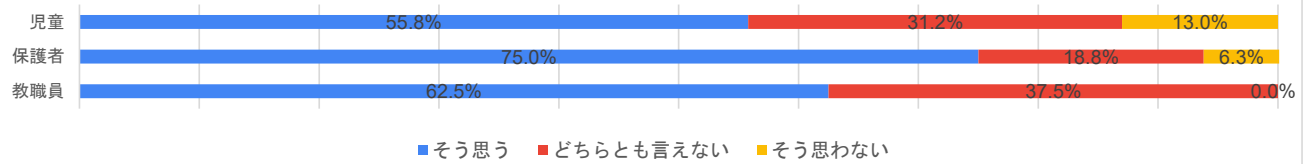
○ 担任が各調査等を分析し、共有することで授業改善を進めている。一方で、「テストや問題でわからなかったところの復習をしてくれたと思わない」と感じている児童がいるという課題が明らかになった。
○ 今後は、各調査結果の分析を基にした指導をし、保護者と児童が「わかりやすい」と実感できるような授業を行うよう、授業改善を推進する。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
4	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	児童	66.2%	28.6%	5.2%
		保護者	89.6%	10.4%	0.0%
		教職員	50.0%	50.0%	0.0%



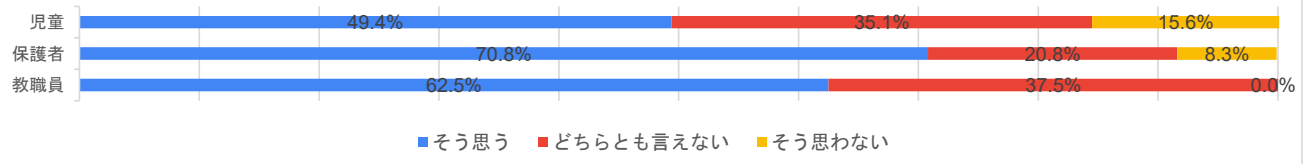
○ 各担任が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をさらに進めるとともに、次期学習指導要領で求められている「深い学びの実装」が実現できるよう、校内研修の充実を図る。
○全教職員が同じ方向で共通理解を図り、授業力を高め、児童の主体性や協働性を引き出す授業改善を進めていく。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
5	児童・家庭に寄り添った指導体制の徹底	児童	55.8%	31.2%	13.0%
		保護者	75.0%	18.8%	6.3%
		教職員	62.5%	37.5%	0.0%



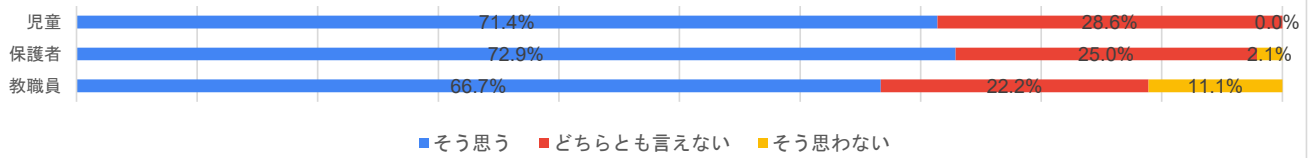
○ 教育相談週間において、児童と話す機会を設けているものの、学習や生活について何でも相談できると実感できていないということが考えられる。そのため、普段から子どもたちが相談してみようかなと思える環境を整えていく。
○ 子どもたちが安心して学ぶためには、学習規律が定着が欠かせない。全教職員で指導の共通理解を図るとともに、どの学年でも徹底できるようにくり返し指導していく。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
6	家庭学習習慣の定着	児童	49.4%	35.1%	15.6%
		保護者	70.8%	20.8%	8.3%
		教職員	62.5%	37.5%	0.0%



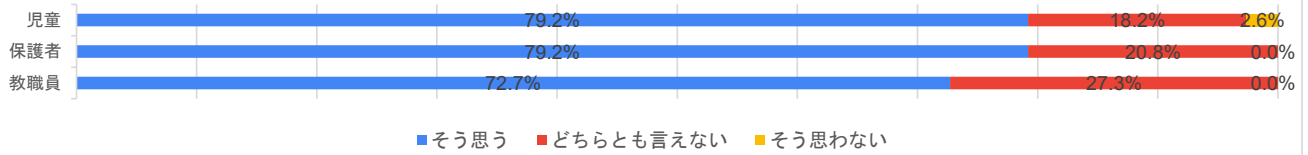
○ 「家庭学習の手引き」を改めて提示するとともに、学習習慣の形成に向け、家庭学習ノートの展示等の取組は引き続き行っていく。
○ 家庭学習の仕方や自律した学習につながる指導が不足していると考えられる。家庭学習の仕方についても指導していきたい。
○ 今後は、過去の「ほっかいどうチャレンジテスト」やAIドリルなどを活用し、下学年までさかのぼって、理解不足な内容を特定するとともに、家庭学習での「学び直し」を行っていく。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
7	ICT活用による学びの充実	児童	71.4%	28.6%	0.0%
		保護者	72.9%	25.0%	2.1%
		教職員	66.7%	22.2%	11.1%



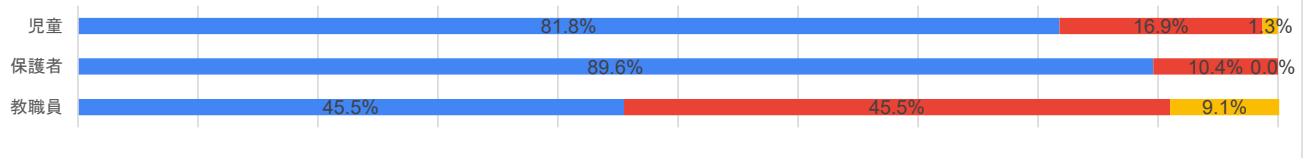
○ 学年の実態に合わせて新しい端末を活用し、児童の調べ学習などに活かしている。ただし、１年生については、入学後、学校生活に慣れるまで一定の時間を要することから、発達の段階を考慮し活用させたい。
○ ３年生以上については、Googleワークスペースや Canva等の機能を積極的に使用し、個別最適な学びおよび協働的な学びを行えるよう、ICT活用による学びの充実を図る。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
8	規律ある学校生活	児童	79.2%	18.2%	2.6%
		保護者	79.2%	20.8%	0.0%
		教職員	72.7%	27.3%	0.0%



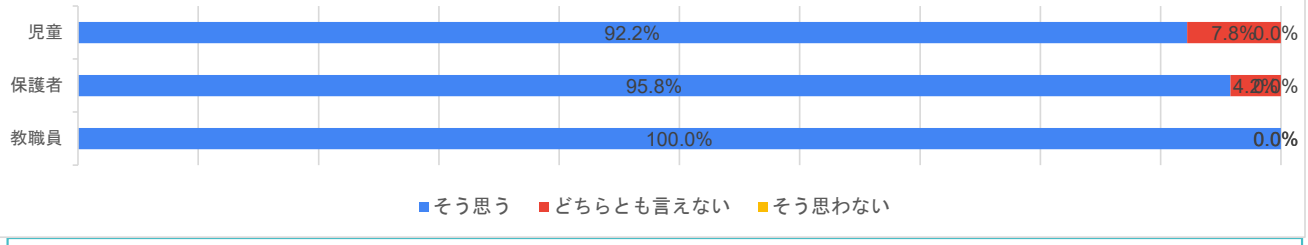
○ 「校内生活のきまり」を徹底するとともに、規律ある学校生活を送ることができるよう、全児童、全教職員の共通理解を図る。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
9	友人関係・相互尊重	児童	81.8%	16.9%	1.3%
		保護者	89.6%	10.4%	0.0%
		教職員	45.5%	45.5%	9.1%



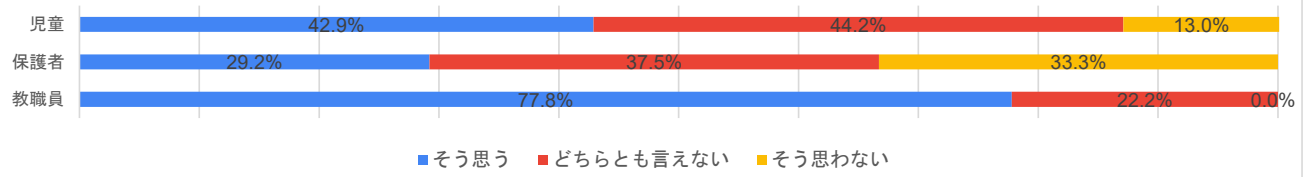
○ 多くの児童や保護者が肯定的に捉えている。ただし、教職員と差が大きく、そのことは教職員が日頃から危機意識を高くもっているためと考えられる。引き続き、早期発見や初期対応の重要性を考慮し、対応していく。
○ 今年度の学校経営の重点である「安心・安全な学校づくり」のために道徳科を要とし、全ての教育活動の中で相互尊重の意識を高めていきたい。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
10	生命尊重と安全行動	児童	92.2%	7.8%	0.0%
		保護者	95.8%	4.2%	0.0%
		教職員	100.0%	0.0%	0.0%



○ 生命を大切にする心や安全な行動について、学校・家庭・児童の認識がおおむね一致しており、道徳教育の充実など、日頃の指導が児童に着実に浸透していることの表れと考えられる。
○道徳や特別活動、日常生活の中で、命の大切さや安全な行動について、継続的に指導を行い、意識の定着を図っていく。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
11	読書活動の充実	児童	42.9%	44.2%	13.0%
		保護者	29.2%	37.5%	33.3%
		教職員	77.8%	22.2%	0.0%



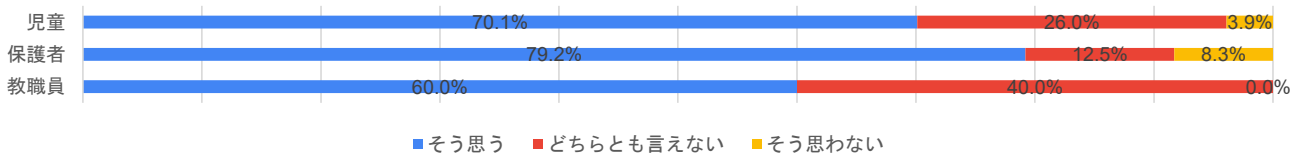
○ 学校で行っている読書活動の取組が、学級懇談会や通信で周知しているものの、家庭や児童に十分に伝わっていないことがわかった。これからは、発信のしかたを工夫したり、子どもたちへ取り組みの成果を実感させたりできるように進めていく。
○読書月間や委員会活動・町で進めている移動図書等を通して、読書に親しむ機会や環境づくりを一層工夫し、充実を図っていく。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
12	主体的な体力づくりへの取組	児童	68.8%	27.3%	3.9%
		保護者	75.0%	22.9%	2.1%
		教職員	55.6%	44.4%	0.0%



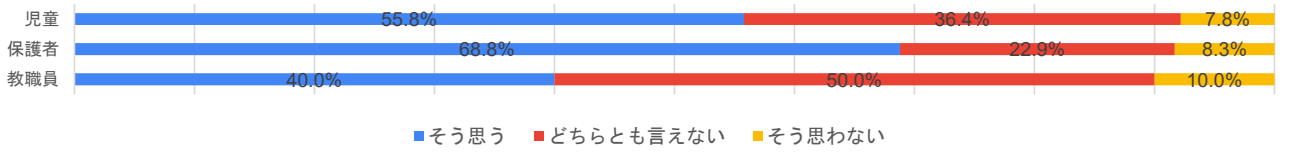
○ 運動会や新体力テストで個人目標を立てさせるだけではなく、立てた目標を意識付ける指導を充実させる。
○体育の授業や休み時間、委員会活動等を活用した主体的な運動の機会を引き続き充実させ、児童が自ら体力づくりに取り組めるようにしていく。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
13	運動習慣定着の取組	児童	70.1%	26.0%	3.9%
		保護者	79.2%	12.5%	8.3%
		教職員	60.0%	40.0%	0.0%



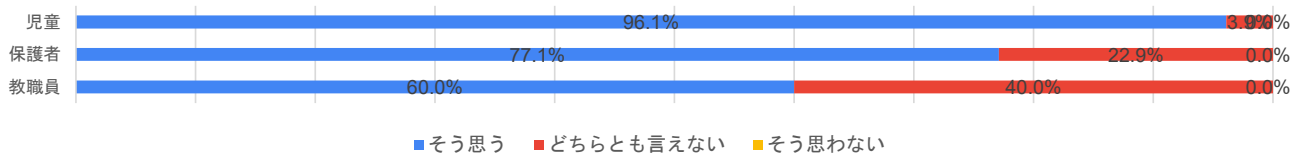
○ 冬場に向けて、縄跳びや器械運動の取組を行い、運動習慣の定着に向けた取組を継続するとともに、運動の楽しさを味わえるよう工夫していく。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
14	規則正しい生活習慣	児童	55.8%	36.4%	7.8%
		保護者	68.8%	22.9%	8.3%
		教職員	40.0%	50.0%	10.0%



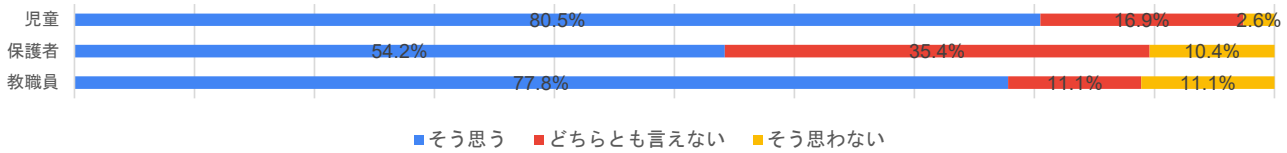
○ 他の項目と比べて、肯定的評価が低いことから、本校の課題として捉えている。
○ 現在も、家庭と連携して取り組んでいるが、早寝早起き朝ごはん、アウトメディアをはじめとした規則正しい生活習慣の大切さについて、保健指導や学級活動等を通して継続的に呼びかけていく。また、毎月の保健指導や毎日の保健目標の振り返りを通して、規則正しい生活を意識させる。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
15	食育・安全教育・防災教育の充実	児童	96.1%	3.9%	0.0%
		保護者	77.1%	22.9%	0.0%
		教職員	60.0%	40.0%	0.0%



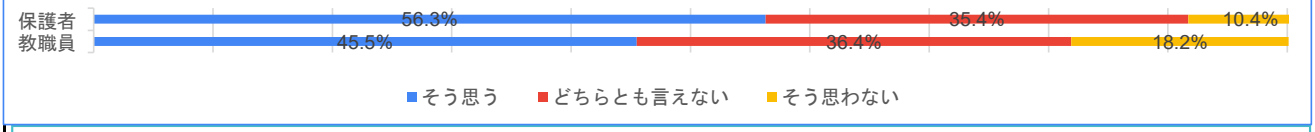
○ 食に関する指導や安全教育、防災教育の取組が児童に大きな効果があったと考える。しかし、教職員の肯定的評価が低くなっているのは、取組の成果についてより高い水準を目指し、厳しく評価していることが考えられる。
○ 今年度の重点の一つである「安心・安全な学校づくり」が子どもたちに定着してきたと考えている。これからも、食育・安全教育・防災教育の取組を充実させるとともに、日々の教育活動において、危機意識をもって取り組んでいく。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
16	デジタルデバイスの使い方	児童	80.5%	16.9%	2.6%
		保護者	54.2%	35.4%	10.4%
		教職員	77.8%	11.1%	11.1%



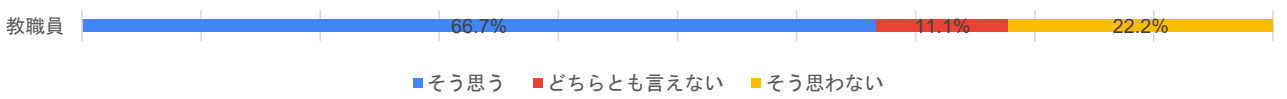
○ 児童は情報モラル教室や日々の学習を通して、デジタルデバイスの扱いを学び、適切に使えていると感じているが、教職員や保護者はより慎重な見方をしており、大人と児童との間で使い方に対する認識に差があると考えられる。
○ デジタルデバイスの適切な使用について、より一層情報モラル教育を計画的に行うとともに、家庭とも連携しながら「よくわかるChromebook・iPad」を活用し、児童が正しい知識と判断力をもって活用できるよう指導していく。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
17	校種間連携	保護者	56.3%	35.4%	10.4%
		教職員	45.5%	36.4%	18.2%



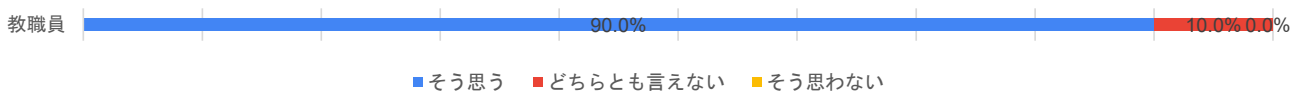
○ 教職員による夏季休業中の保育体験実習や中学校教員の乗り入れ授業の取組等が家庭に十分に伝わっていないことがわかった。これからは、取組を適宜家庭に発信していきたい。
○ 令和１０年度の義務教育学校開校に向けて福島中学校や吉岡小学校との連携を深め、教育活動の充実を図る。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
18	業務改善の取組	教職員	66.7%	11.1%	22.2%



○ 教職員の人数が減り、業務負担が増えたと感じている教職員がいる。
○ 業務改善については、年度末のみに行うのではなく、各行事ごとに反省を確実に集約し、それを受けて次年度への改善に結びつけるとともに、すぐに改善できることは年度途中であっても改善を行う。働き方改革を含めて推進していく。

			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
19	生成AI活用による業務改善	教職員	90.0%	10.0%	0.0%



○ 昨年度から教職員が生成AIを活用した業務改善に取り組んでいるため、今後も効果的な活用を図り、業務改善を進めていく。ことによるものである。
○ 今後は、引き続き教材研究も含め生成AIの活用を進めていくとともに、効果的なものについては、職員間で共有を図っていく。